

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム星の家 (2階 織姫)		
所在地	北海道札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号		
自己評価作成日	平成26年6月21日	評価結果市町村受理日	平成26年7月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&JigyosyoCd=0170400881-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様やご家族様に支えられながら、開設から丸10年が過ぎ、外壁は化粧直しも終わり、入居者様方から「生まれ変わったね」と喜ばれています。理念に掲げられている『人格の尊重・楽しみの在る生活空間作り 私達はこの開かれた地域に愛され・信頼されるグループホームを目指します』については、マンネリ化した意識のもとで業務に携わっていないかをチーム全体で振り返り、気づいたことには積極的に取り組み、検討を重ねたうえで改善を図っています。職員の年齢層は20代～60代まで幅広く、それぞれの立場で使命感と誇りを持って入居者様と接しています。玄関前から歩道に出ると、すぐ近くに手稲山が望める所にホームの建物が位置しているという好条件を生かして、四季折々の変化を感じて頂きながら外出や外気浴の機会も少しずつ増やし、町内の方々との触れ合いも大切にしています。時間の経過と共に重度化しても、入居者様一人ひとりが地域の一員として「その人らしく」生活できるよう、今後も支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での役割に目を向けた独自の理念を作り、各フロアやスタッフルームに掲示したり、ミーティング等で話し合いの場を持つ事で共有し、意志統一を図りながら日々のケアの実践に生かしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、新年会を初め清掃活動・花壇作り等への参加、「子供110番の家」として交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議以外でも避難訓練やホーム内の行事に参加して頂く事で入居者様と接して頂き、理解を深め支援方法を見て頂く機会を作っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、事業所側からの報告や説明だけではなく参加された入居者様・御家族様・町内会の役員の方々、地域包括支援センターの方々の話を聞く機会も設けながらサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネが主体となり各手続きや事業所の状況報告等を行っている。又、区の管理者会議での内容も定期的に報告し不明点があればアドバイスして頂いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間(19:00~8:30)は防犯上、表玄関と裏口の施錠を行っているが日中は開錠している。ベットの柵に関しては転落の可能性のある方のみ御家族様に説明し同意を得ている。身体拘束について全職員が正しい理解をしているか定期的に再確認出来る機会を作っていく、身体拘束しないケアを行っていく		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が日々自覚を持ち防止に取り組んでいるが、今後も定期的に勉強する機会を作り、身体的な事は勿論、普段使用している会話の中でも言葉での虐待に繋がっていないかも含め防止に努めていきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会による支援事業を利用されている入居者様もおり、担当の職員と毎月、相談や話し合いの場を設けている事で日常生活の支援に結びついている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項も含め、入居者様や御家族様に十分な時間をかけて説明を行っており、各同意書等にも理解して頂いている。税金変更により料金に改定があった場合にもその都度説明し、ご理解頂き了解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関やエレベーターホールに意見箱を設置している。又、入居契約時に外部への苦情相談機関がある事を具体的に説明している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の申し送りの中で意見や提案を出せるような場を設けている。又、休憩時間等に個々に意見や要望を聞く機会も時々作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心・責任感が持てる様、経験年数やスキルに応じて給与を支給している。介護職員処遇改善給付金の支給も年2回行っている。残業とならない様、介護現場の状況把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験や力量を考慮し、又、本人の希望を元に外部研修への参加の機会を設けている。ミーティングにおいても振り返りを元にケアの方法を話し合ったり、病態の理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区が主催の管理者会議には毎回出席している。区内の管理者会議では各ホームでの問題点等についても、議題に盛り込み共有する事でケアの応用や改善にも生かされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や御家族様から得た基本情報をベースに、傾聴に努め記録に残す事で、混乱されないようスタッフ間で統一したケアを行い、安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から御家族の困っている事、要望、介護負担の緊急性を見極め、1つずつ受け止めていくことで、サービス開始までに第1段階としての信頼関係を築くことが出来る様にし、入居後、更に関係を深める事が出来る様、配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学は空き状況に関わらず随時行っている。御本人様や御家族様が希望される支援内容によっては、他の施設等への相談も行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事、出来ない事を見極め一人一人が有する能力を發揮し、役割を持って頂ける様にする事で入居者様主体の「人」と「人」との関係性を築く事が出来る様、取り組んでいる		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時には身体状況を含めての近況報告をしている。又、身心面に変化が見られる場合には、その都度、電話にて報告している。御家族様からの心配事にも時間をかけて対応し、入居者様を支えていく為の関係性を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り関係が維持できる様、御家族様のみならず、知人や友人の面会時には、ゆっくり過ごして頂ける様にしている。手紙や小包が届いた場合は電話で話をさせて頂いたり、手紙の返事を書かれたりしている。馴染みの場所が遠方の場合には行く事は難しい為、会話の中で、いつまでも忘れない様に支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の思いを尊重し性格も把握しながらトラブル発生に繋がる事のないよう座席の配慮をしたり場の雰囲気が悪化しないうちに職員が介入する等、良い関係が保てる様、支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設への入居の為、退去された入居者様もいるが、御家族様との年賀状の、やり取りが続いている。退去された御家族様より新入居者様の紹介をして下さる事がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で表情や言動、環境状況から御本人様の意向の理解に努め、職員間で共通意識を持って出来る限り、その思いを尊重した取り組みを行える様、努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様や御家族様からの基本情報を元に今までの生活の様子等を把握し入居後も1対1の関係を大切にコミュニケーションを取りながら早くホームに慣れ穏やかな暮らしが出来る様、支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペース思い等を把握しながら出来る事、出来ない事の見極め心身状態にも配慮し、出来ている事が維持できる様、支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り時や月に1回のミーティング内で、前もって御本人様、御家族様の希望や意見を確認し、各担当者がまとめ現状に即した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子がわかる様な、ケース記録となっており情報を共有しながらケアを実践し計画に活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の状況を把握し、必要に応じ、受診時も御家族様と一緒に同行している。入退院時にも、御家族様が行けない時には送迎サービスも行い柔軟な対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーや公園、薬局へ出かけたり回覧板を届けに行ったりと、入居者様が暮らしを楽しめる様、支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、御本人様、御家族様の希望を確認し納得された上でかかりつけ医の往診を月2回受けている。又、体調変化時には電話にて報告・相談し状況に応じ往診して頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、看護師が出勤し入居者様の健康管理を行い、休日や夜間等も電話にて対応して下さっている。医療面での職員の疑問や悩み事等、細かい部分も聞いて下さり、連携が図れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には診療情報提供所や介護添書を出来るだけ早く医療機関へ提出したり、最近の心身の状態も伝えていく。地域医療連携室、相談員との連携も図り、情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分な体制とはなっていなかったが、本年度より「重度化した場合における対応に関わる指針」を見直し、御本人様・御家族様と話し合いながら同意を得て取り組みを開始している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時の対応マニュアルがあり、管理者、医師、御家族への連絡方法、救急車要請がスムーズに行える様にしている。全職員が実践力へ繋がってはいなく定期的に訓練を行っていき力をつけていきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定し年4回、避難訓練を実施しており町内会の方々の参加協力も得ている。火災以外の災害時に関してもマニュアルを作成し運営推進会議にて消防署の方や町内会、御家族様への説明も行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を過ごしてこられた先輩として、人格を尊重し、言葉かけや対応に配慮している。会話のみならず表情や仕草からのサインを見逃さないように努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のレベルや状況に合わせて、自己表現をしやすい環境作りに努め、わかりやすい言葉での声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員の作業が優先されがちであるが、一人ひとりの思いや希望を取り入れマンネリ化しない過ごし方の工夫に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容により、散髪、髭剃り、パーマ、髪染を行っている。ご自分で毎朝お化粧される方や時間をかけて整髪される方もおられるが、ご自分でできない場合は希望に添って整髪したり、洋服を選ぶなどの支援も心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の形、色合い、盛り付け方等を工夫し入居者様一人ひとりが食事を楽しむことが出来るように努めている。出来ることを見極め、食事の準備(下ごしらえ)や後片け(食器、お盆拭き)にも積極的に参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残し摂取状況の変化に気づき易いようにしている。体調や活動量に応じてカロリーや栄養バランスに配慮している。嚥下状況に合わせた調理の工夫も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、就寝前の義歯洗浄剤の漬け置きを実施している。入居者様のレベルに合わせて声掛けや介助を行い、歯科医の指導に添って歯間ブラシや舌ブラシも使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により排泄間隔や失禁状況を把握したり、動作や表情の変化をつかむ事で、トイレ誘導やトイレ利用の声掛けをおこなっている。失敗を軽減し気持ちよくトイレで排泄できるよう支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が引き起こす心身面の影響について看護師とも話し合いながら、水分摂取の促しや食事の内容に配慮している。牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材も多く取り入れ適度な運動も心掛けている。状況に応じて下剤の調整も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は一人ひとりの希望に合わせてできていない現状だが、一日おきに一对一のコミュニケーションの場としても楽しんで頂けるよう支援している。拒否の場合は、シャワー浴や清拭対応も行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、その日の体調や疲労感に合わせてご自身からの希望がない場合でも、声掛けや促しにより、休息して頂くように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更や追加時は看護師が介護職員に口答で伝えたり、個人のノートに解り易く記入し副作用や用法、容量についての注意点は赤ライン等により、目立つようにすることで共有化を図っている。症状の変化については、申し送り時や日中に随時報告し確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ方、出来ること出来ないことを把握しながら、ミニレク、縫い物、塗り絵、パズル、歌唱等楽しみのある時間・空間作りを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期にはホーム玄関前での日光浴やホーム周り(公園等)での散歩に出かけている。普段、行けないような場所には、年間行事予定に基づき花見や紅葉狩り、外食等を実施している。ご家族が外出同伴して下さることも度々ある		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を持つことは難しいため、ご本人・ご家族の了承を得てホームでお預かり金として、介護職員同伴の買い物時に必要金額を持ち出している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との話し合いの上、ご本人からの希望がある場合は電話をして頂いている。ご自身でかけることができないため介護職員が取り次ぎ支援している。書いて頂いたお手紙に介護職員がメッセージを添えて郵送し良い関係が保たれるように努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の共有空間の壁には季節の行事に合わせた飾りつけを行い、入居者様が四季を感じられる工夫をしている。入居者様が写っている行事写真が載っている星の家便りも掲示している。居間でのテレビ・BGM等の音量は大きすぎないように配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、食事以外の時間に気の合う入居者様が何人か集まると、お話しやすいように席を設け、思い思いに過ごして頂けるようにしている。廊下の椅子に腰を掛ける方には、ゆっくりされるよう声掛けしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた馴染みの家具や思い出の写真の他、お好みのポスターやカレンダー、ご自身が作成された塗り絵や習字等を貼り、居心地良く過ごせるような工夫に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアにはご本人の了承を得たうえで、表札や顔写真を掲示している。個々の身体レベルを考慮した上で居間の椅子は肘掛けのあるものを使用し、安全にくつろげるよう配慮している。		